

こいのぼりの川渡しを生んだ

十川体育会



2009年の作業風景
子ども達もお手伝い。
大人になる頃にはベテランの域に。



こいのぼり公園に移る前の写真

昭和36年当時の青年団の定年は、なんと30歳！
まだまだ若い30代以上の者たちが活動する組織
として結成したのがはじまり。昭和48年、正式
に「十川体育会」と改名し地域のスポーツ大会や
イベントを主催してきました。この年「第一回四
万十川まつり」を主催したのも十川体育会。昭和
49年に「第一回こいのぼりの川渡し」を実施。
当時は役場前にロープを張り、地域内に眠ってい
たこいのぼりを50匹ほど渡したのが始まりでした。

特集

こいのぼりの川渡し

受け継がれる故郷と子どもたちへの想い

今ではすっかり四万十町の春の風物詩となった、こいのぼりの川渡し。5月の連休には毎年多くの県外ナンバーの車やバイクが行き交う姿が見られました。しかし、その景色が急変したのが一昨年。新型コロナウイルスへの不安が人々を襲い、混乱した社会が続いていました。そんなときこそ、元気を届けたいと渡したこいのぼり。しかし、社会の混乱は想像以上に大きく、一昨年のこいのぼりは渡してから一週間で撤収することになりました。



子どもたちの成長を願い続けて48年。
500匹のこいのぼりが、再び青空へ。

こいのぼりの川渡し

豆知識

- 1 川渡しの幅は630m。川渡しをしている地域は全国にたくさんあるが、これだけ長い距離を渡しているところはない！
- 2 こいのぼりを吊るす数は決まっている。
2m間隔で、上段300匹、下段200匹
- 3 名前やメッセージ入りのこいのぼりは一番目の付くところに。
今年は33匹！
- 4 ナイアガラでこいのぼりの川渡しをしに、
アメリカまで行ったことがある。
- 5 昔、NHKの番組「ひるどき日本列島」の番組撮影のために
1日だけ渡したことがある。



松元 昭夫さん

「こんな事態やけん、しょうがないがやけどね！」と前置きをしつつ「今までやってきた中で一番つらかったのは一週間で撤収したこと」と話すのは、主催者である十川体育会会長の松元昭夫さん。新型コロナウイルスの猛威は収まらず、翌年（令和3年）も中止となってしまいました。（会長を）70歳で引退しようと思ひよった。



それが去年やったがやけど、できなかったろ。やっぱり最後にこいのぼりを渡して引退したかった。今年ではできてよかった。これで引退できる。」嬉しいような寂しいような表情をみせる松元会長。会長と一緒にこいのぼりを渡していた子どもたちが大人になり、そのまた子どもたちと一緒に渡していく。春の四万十川と人々の心を彩るこいのぼりの渡しは、次の世代へと受け継がれ、これから地域の子どもたちへ、そして四万十町に明るい風を吹かせます。